

第 3 回平群町第 6 次総合計画等検討委員会での意見等まとめ

項	区分	意見／指摘／質問など	所管課
1	委員	基本計画は 5 年間変更しないのか。	まち未来推進室
	事務局	計画自体は 5 年を目途に変更していく。ただし、自治体を取り巻く環境は日々変化していくため、施策等は柔軟に対応していきたい。	
2	委員	防災無線が聞こえない。スマホで情報発信してはどうか。	総務防災課
	事務局	登録者向けにメールで防災情報の通知を既に行っている。また、防災担当課でスマホの使い方講座なども企画し、登録を促している。	
	所管課	電話応答システムによる聞き直しシステムの導入も実施している。	
3	委員	AI や DX に取り組んでいくとあるが、デジタル化している中で、印鑑が必要な手続きがある。はんこレスの取組みは進めているか。	政策推進課
	事務局	請求書や国や県から印鑑が必要とされているもの以外の事務でははんこレスを進めている。	
	所管課	今後ははんこレスも含め、行政手続きのオンライン化に向けて取り組んでいく。	
4	委員	平群中央公園の遊具等の整備はいつ終了するのか。 また、更新・整備を進める予定はあるのか。	都市建設課
	事務局	中央公園の遊具等の整備に関しては、順次更新していくはずだが、所管課に確認する。	
	所管課	中央公園の大型木製遊具は、老朽化のため令和 3 年に撤去を実施した。大型複合遊具を新規に設置できるように、予算化に向けて努力していく。	
5	委員	三郷町は SDG s 未来都市に認定されているが、平群町では SDG s に関してどういった取り組みをしていくのか。 また、SDG s 未来都市に認定されるには申請が大変なのか。	まち未来推進室
	事務局	平群町ではホームページ等で啓発を行っており、広報紙での発信も予定している。 また、申請の大変さは不明だが、申請の予定はない。しかし、SDG s の推進に向けて深く取り組む必要があると考えている。	

6	委員	<p>中学生アンケートにおいて「住みたくない」が約半数いることについて、深刻に捉えないといけないと感じる。</p> <p>郷土を思う心や自慢、地元を思う気持ちを持ってもらうことが必要。そのために、平群の良いところを活かした、学校における教育が不足していると感じる。(バラ園での課外活動等) 学校だけでなく、ボランティア等と連携しながら実施してほしい。</p>	教育委員会
	事務局	<p>少なくとも、「平群町ってこんな町！」と言えるようにしたい。広報紙にコラムを掲載するなど、少しずつ平群町の認知度を上げるような取り組みも行われている。</p> <p>郷土教育については、所管課に伝える。</p>	
	所管課	<p>郷土学習や郷土愛を育む取り組みを教育の主要施策と位置付けており、社会の副読本を使った郷土学習や校区内の調べ学習、文化財史蹟・町内事業所等の訪問など小学期からの郷土学習を実践している。また過去には「校区自慢大会」を開催し、小学生同士の交流も行っていた。</p> <p>今後においても現状の小・中学校の実態を把握し、機会がある毎に郷土愛を育てる教育を実践するとともに、広報紙やSNS など多様な媒体を通じて、地域の情報を積極的に発信していく。</p>	
7	委員	<p>平群町めぐりなど上手に平群町にお金を落とす企画を町だけではなく民間企業と連携しながら考えていってはどうか。</p>	観光産業課
	事務局	<p>所管課に伝える。</p>	
	所管課	<p>産官学連携の取り組みについては継続しており、さらなる民間企業との連携については、内容・方法ともに今後検討していきたい。</p>	
8	委員	<p>人口減少について、近隣の市町村の状況を教えてほしい。</p>	まち未来推進室
	事務局	<p>まち未来推進室で独自にとりまとめた資料を作成しており、その概要をご説明する。</p> <p>平群町(-7.0%)、三郷町(-0.2%)、斑鳩町(-1.3%)となっている。安堵町(-8.1%)は人口規模が小さいが、減少幅は平群町よりも大きい。</p> <p>王寺町については、人口が増加している。</p>	

9	委員	骨子案（8 ページ目）財政のところに関して、ずっと同じような内容の文章を見ている気がする。 健全化計画が具体的にどうかという分析が必要ではないか。	政策推進課
	事務局	財政状況について、ご指摘の通りここ 10 年以上厳しい。大きな問題は将来負担比率であり、公債費を平常に戻す働きを行っている中で第 6 次総合計画の取り組みを計画的に行う所存である。文章については検討を行う。	
	所管課	現在令和 3 年 3 月に策定した「緊急財政健全化計画」の早期集中プラン時期であり、その内容について取り組んでいる。奈良県とも財政の合同勉強会等を行い、「財政健全化計画」の進捗管理についても協議し、令和 7 年度の目標数値に向けて分析を行いながら、毎年決算後見直しを行っている。	
10	委員	骨子案（2 ページ目）総合計画の“背景と位置づけ”について、第 6 次総合計画の目指すべき方向性を示してほしい。最後まで読んでもらえる構成にしてほしい。	まち未来推進室
	事務局	第 6 次総合計画での方向性については、第 2 部で示しているが、第 1 部での説明についても検討する。	
11	委員	コロナ関連の給付金は、国や県の負担か。 町財政に影響はないという理解で良いか。	政策推進課
	事務局	コロナ対策関連の国からの交付金である。国の予備費を活用し、町のほうで交付金等の施策を考えている。その中で、不足分は、町が負担している。	
	委員	全世帯に給付金をするのであれば、子育て世帯に給付するなど有効に活用したら良いのにと感じた。	
	所管課	今年度における「子育て世帯への臨時特別給付金」等国の施策においては 100%国の給付金での対応となっている。 また、コロナ臨時給付金は、その時々的情勢に応じた交付金の趣旨があり、その趣旨に沿った事業内容で町独自で地域の実情に合った施策を講じていくものに対して、一定の町の一般財源が生じている。	

12	委員	骨子案（7 ページ）社会増減の増加のデータがあるが、要因と年齢層を聞きたい。	まち未来推進室
	事務局	平成 27 年の新規こども園の開設や高校 3 年生までの医療費無償化などが影響していると考えている。 転入者の年齢層は、30~39 歳が 23%、20~29 歳が 22%となっており、約 45%が若い世代（20~39 歳）の転入者である。子育て支援策に一定の効果が出ていると考えているが、更に社会増を増やすべく、力を入れていきたい。	
13	委員	子育て支援センターについても午前中だけしか開いていないと聞く。	福祉こども課
	事務局	子育て支援センターについては、通常 1 日開いている。ただ、コロナ禍から人数や時間の制限をしている場合もある。	
	所管課	現在では通常どおり、月曜日から土曜日まで、9 時から 12 時、13 時から 17 時（土曜日は 16 時まで）が利用時間となっている。	
14	委員	20, 30 代が住むような対策が必要であり、そのためには環境と住まいが重要である。 21 ページの「人口流入の受け皿となる土地利用の見直し」をそのまま読むと、宅地開発、調整区域を市街化区域に、ゆるやかな住居系施策を意味しているのか。人口減少の現状があるうえで土地利用を推進するというのは違和感がある。	まち未来推進室 都市建設課
	事務局	現課と調整する。	
15	委員	将来人口推計について、人口減少が進む中、転入の推進と出生率の向上のどちらを優先するのか。人口増加を推進する施策の決め手にかけると感じている。現在の人口を保ちつつ財政を健全化するためのインパクトがある施策が求められる。また、総合戦略で現在の人口を保つということを目指している自治体もあり、参考にするべきではないかと思う。人口減少を前提とするべきではないのではないか。	まち未来推進室
	事務局	現在平群町には少ない年齢層と多い年齢層が顕著に表れており、人口割合の多い年齢層については今後死者が増え、人口減少が進むと予測される。今のご意見のように、現在の人口を保つということではなく、全体の減少を見据える中で、社会増を増やすような施策に力を入れたいと考えている。	

16	委員	“選ばれるまちになるための施策”では、全国的に少子高齢化が進行する中、町同士で人口の取り合いをするように読み取れる。住民が住んでいて満足するまちを目指すことが重要ではないか。それをどのように行うか、基本理念の中に入れ込むべき。	
	委員	過去の政策から20代、30代が流出し、いびつな人口構成となっている。流出を止める形をとることが優先で、他地域からの流入を重んじなくてもよい。 人口は減ってもよいので、いびつな人口構成を直す必要があり、子育て世帯に対する無償補助等と、残っている人が幸せに住めるような施策を行うべきと考える。	
	事務局	“選ばれるまちになるための施策”だけでなく、“住民の暮らしを支える施策”等も行い、町民の満足度を重んじていく所存である。 前者の表現については、「平群町に住んでいてよかった、住み続けたい」という印象の表現に調整したい。	
17	委員	第5次総合計画の将来都市構造図では“観光拠点”があったが、今回は入れないのか。	都市建設課
	事務局	この部分に関しては、平成30年3月に策定した【改訂版】都市計画マスタープランをそのまま持ってきている。都市計画が変わる可能性があることもご理解いただきたい。	
	所管課	都市計画マスタープラン（平成30年3月改訂）から、引用している。改訂版マスタープランの将来都市構造図は、都市計画上の土地利用に関する内容に限定したため、観光拠点の記述については除いた。	
18	委員	使える自然が多すぎるのではないかと感じる。キャンプ場等自然を活かして、一度出て行ったとしても戻ってくるような町にしてほしい。	観光産業課
	事務局	平群町の魅力の1つである“自然”を活用した取り組みを検討する。	
	所管課	緑豊かな丘陵地と南北に流れる竜田川が生み出す自然環境である田園風景や景観を町民が愛着や誇りを抱けるように観光PRを検討する。	